

## 目的

- 認知症高齢者を抱えるグループホーム(以下GH)では複数の疾患を合併していることが多く多剤を併用しており処方の変更も多い。
- 介護職員が複雑な服薬管理をすることで負担も多く、リスクが多く存在している。
- GHの正面に位置する当薬局は、平成24年4月より入居者に対して訪問薬剤管理指導を担当している。薬剤師の介入事項と内容、包括的服薬管理の必要性を報告する。

## 方法

平成25年11月の一カ月間、18名の入居者に対して行った薬剤管理や指導について詳細な時系列記録を記載した。この資料をもとに薬剤師の介入した管理や指導の内容について検討。また介護職員に対し、薬剤師介入についてのアンケートを実施。

★18名が入居するAグループホーム(当薬局の正面)5つの医療機関(往診専門の診療所・透析病院・訪問歯科・訪問眼科・訪問皮膚科)から薬が処方

アンケート対象:介入前から在籍する介護職員11名

# 入居者Aさん

## 疾患名

慢性腎不全

認知症

ANCA関連血管炎

2014年1月	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日
	往診日 定時処方 23日に皮膚科で腫瘍切除のためバイスピリンOFF	訪問眼科 透析病院 定時処方					皮膚科で切除 フロモックス処方 追加セット	下痢気味のため潤腸湯OFF アミテイーザ1錠に減量して再セット	皮膚科で傷口の処置 カロナール処方 追加セット		皮膚科で傷口の処置 フロモックス処方 追加セット	バイスピリン再開 追加セット		
<b>診療所定時処方</b>														
1)ロナセン(2) 2錠 朝食後														
2)潤腸湯 5・0g 朝夕食前														
3)アミテイーザ 2錠 朝夕食後														
4)ロヒプノール(1) 1錠 寝る前														
<b>透析病院定時処方</b>														
1)バイスピリン 1錠 朝食後														
2)アムロジン(5) 1錠 朝食後														
3)ランソプラゾール(15) 1錠 朝食後														
4)プレドニン(5) 1錠														
プレドニゾロン(1) 1錠 朝食後														
5)ネオマレルミンTR 1錠 寝る前														
<b>訪問皮膚科</b>														
フロモックス														
<b>訪問眼科</b>														
ヒアレイン点眼処方														

## 2013年11月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
				1	2	3
				往診日 8名の往診に立ち会う ムクダイン、アントブロンを追加セット ネリブロクト坐剤の使い方説明 小青竜湯を追加セット 4日から10日の服用分を持って行く	外用薬を持って行く スピール膏の使い方説明 残薬の整理	
4	5	6	7	8	9	10
	体験入所の方の再分包 医療機関へ用法変更の問い合わせ 確認後再分包してセット 坐剤がうまくはまらないとの相談 水でぬらすかキシロカインゼリーを使ってみよう指導	頓用薬を追加して良いか問い合わせ 確認が取れたので残薬から持って行く 眼科の目薬を持って行く 使用方法、保管方法の説明	往診日 5名の往診に立ち会う クラリチンを追加セット 市立病院の処方に合わせてセット 歯科の処方を持って行く 11日から17日の服用分を持って行く			
11	12	13	14	15	16	17
腰痛コルセットを持って行く ハイドロ救急バットをもっていき 使い方の説明 歯科の処方を持って行く	新入居者のご家族と契約	臨時往診で出た薬を追加セット 眼科の目薬を持って行く 透析病院から3名分の処方箋 分包して合わせてセット 副作用による体調不良かもしれないので医師に相談 医師の指示により抑肝散OFF	往診日 7名の往診に立ち会う アルダクトンAを追加セット ムコダイン、アントブロンを追加セット 漢方薬を追加セット 星の漢方薬をOFF 抗生剤を追加セット 18日から24日の服用分を持って行く		外用薬を持って行く	
18	19	20	21	22	23	24
	便秘が悪化した入居者に残薬からカマを追加セット	歯科の処方を持って行く		往診日 7名の往診に立ち会う 抗生剤を追加セット アルダクトンAをOFF 用法変更のため再分包して追加セット 歯科の処方を持って行く 25日から12月1日の服用分を持って行く		
25	26	27	28	29	30	
歯科の処方を持って行く 皮膚科の処方を持って行く 新入居の方の薬の整理 再分包して持って行く		歯科の処方を持って行く 透析病院から4名の処方箋 分包して合わせてセット 新入居者のご家族と契約	往診日 8名の往診に立ち会う ワーファリン追加セット セロクエルを半錠にして再セット 歯科の処方を持って行く ワーファリン服用時の食べ物の説明 12月2日から8日の服用分を持って行く		嚥下困難になっている薬の粉砕を メーカーに問い合わせ 粉砕による安全性が確立されていないので 分割による服用を試す 直前の分割なら可能なので介護職員へ 分割による服用方法の説明、指導	

## 結果

薬剤師介入事項をOP・PCP・EPIに分類

	OP (Observation plan)	PCP (Pharmaceutical care plan)	EP (Education plan)
往診同行時	・バイタルサインの記録 ・顔色、活気を観察 ・検査値の確認 ・服薬状況の確認	・入居者全員分の薬を一日単位でまとめてセット ・薬の追加、オフ ・併用禁忌の確認 ・粉砕可否、安全性の確認	・介護職員への服薬管理方法の指導、アドバイス ・介護職員への効果・副作用の説明 ・医師への薬剤情報提供 ・医師への処方提案
新入居者に対して	・持参した薬の確認、整理 ・嚥下機能、認知機能の確認 ・全身状態の確認	・持参薬を一括してセット ・持参薬の医療機関への問い合わせ	・介護職員へ内服薬の説明
嚥下困難時	・嚥下機能の観察、確認	・メーカーへ粉砕、分割可否の問い合わせ ・剤型を変更して再セット	・介護職員への剤型の提案、指導
残薬	・残薬の数の確認、管理	・残薬を使用してセット	・医師に残薬の報告、処方提案
トラブル発生時	・状況の確認 ・全身状態の確認	・安全性の確認 ・薬の再セット	・介護職員へ今後の対応への指導、アドバイス

## 服薬管理事例

- ★抑肝散服用中の入居者に浮腫、血清K低下症状が見られたため甘草による副作用の可能性を医師に助言  
抑肝散を翌日から減量との指示があり再セットしに行く
- ★レナジェルを服用中の入居者が飲み込みづらくなってきているので粉砕できないかと介護職員から相談される  
メーカーに問い合わせしたところ、粉砕すると水分を含んで膨張し余計に飲み込みづらくなるとの回答があり、粉砕ではなく四分の一にカットして服用することを提案し試したところ飲みこむことができた  
介護職員へ服用直前にカットするよう指導
- ★アローゼンの飲み残しが多い入居者の排便状況を介護職員に聞いたところ良好との回答、その旨医師に話しアローゼンを処方からカットして、また便秘になった時には残薬から使用することを提案

## 介護職員から薬剤師への意見

(アンケート自由記載より)

- 薬のわからないことを気軽に聞いて有難い
- 医師には聞けないことを相談できる
- 相談することで薬が身近になり理解も深められる
- 薬剤師のアドバイスにより薬の選択が広がり入居者利益となっている
- 薬のことをおまかせできるので安心してその分ケアに回ることができる



↓  
気持の負担が減った **100%**  
薬への関心が増えた **91%**

2013年	医師の往診に同行	4回
11月	GH訪問日数	17回
	GH訪問回数	40回
	OP 15回 / PCP 48回 / EP 16回	

## 薬剤師が感じるメリット

- 医師の往診に同行することにより処方意図を直接把握できるため**的確な服薬指導**ができる
- 薬局がGHの門前にあるので移動に時間がかからないため、**頻回に訪問**することができる
- 頻回に訪問することにより、介護職員との**信頼関係**が築ける
- 入居者を中心に家族、医師、看護師、薬剤師、ケアマネ、介護職員が一同に会し、**ケア方針について直接話す**ことができる

## 薬剤師が同行することで医師が感じるメリット

(往診の医師に聞いてみました)

- 薬剤師が同席することで**処方の選択肢が広がったり**その場で**剤型について相談**できる
- 残薬の状況、頓用の使用状況**などが的確にわかる
- 他の医療機関を探す時、近隣の医療機関の情報などを提供してもらえる
- 入居者のケア方針についてその場でディスカッションすることができることはまさに**地域包括ケアの実践**といえることができる

## 考察

- GHに薬剤師が介入することで複数の医療機関から出される処方を**個別かつ包括的に管理**できる
- 薬剤師が管理することにより**安全性が高まる**
- 施設の門前という利便性をいかし頻回に訪問することができ、**きめ細かいスピーディな対応**が可能となる
- 介護職員が**業務に専念**でき薬への理解も高まる
- 医療、介護とも**質向上**が望める

## 結語

- 訪問回数と調剤報酬は経営的な観点から見れば効率が良いとは言えない現状がある
- しかし、GHにおける複雑な服薬管理を包括的に管理することは薬剤師の責務であると考え
- 今後、介護の現場において薬剤師による**包括的服薬管理の必要性**を周知していくことが望ましい

## AGHの介護職員への薬剤師介入についてのアンケート結果

